

あしたの風

編集・発行：男女共同参画あきたF・F推進員、大湯村

2023.3発行

フェミニズムを知れば、社会から目をそらせなくなる

あきたFF推進員 柏 雄子

男女平等を阻む「歯止め」は社会の至る所に今も残る。生まれつきの男女の違いではなく、社会的に作られる性差＝ジェンダーは意思決定の問題として様々なステージで女性の社会進出を阻む要素にもなっている。

「政治分野の男女共同参画推進法」施行から今年で5年になるが、均等は道半ばだ。昨年の参議院選で当選した女性候補は35人と過去最多だったが、全体の3割にしか届かず、衆参両院の国会議員に占める女性は約15%に過ぎない。IPU（列国議会同盟）の最新の統計によると、2023年1月時点の各国の国会下院（日本では衆議院）での女性議員割合は、世界193カ国中164位である。

秋田県議会では、男性や60、70歳代の議員の割合が高く、男女間、世代間のバランスを欠く構成となっている。身近な政策の決定の場である地方議会の多くで、未だに女性の姿が少ないまま議論が進められている。女性を積極的に取り入れる制度の導入が必要だ。

「なぜ女性議員が必要か」

「女性議員であれば誰でもよいのか」

という議論も含めて、女性の立候補自体がまだまだ困難な課題を抱えている。

まずは村民意識、特に女性は旧態依然とした意識から解放されなければ変わっていかないと考える。

北欧諸国や韓国のように、クォータ制の導入も叫ばれているが、遅々として進んでいない。優れた資質を持つ女性が自ら手を上げず、立候補をためらっているとしたら社会の損失である。男女格差の是正は喫緊の課題であり、女性登用を推進する制度がこれからの重要課題である。

《クォータ制》

社会に残る男女の性差別による弊害を解消していくために、積極的に格差を是正して、政策決定の場の男女比率に偏りが無いようにする仕組み。

《IPU（列国議会同盟）》

列国議会同盟 Inter-Parliamentary Union は、各国の国会議員による国際的な交流組織。国際的協調及び平和の推進、国際連合の活動の支持、世界の議会制度の発展と進歩に寄与することを目的としている。毎月、各国議会における女性比率の発表を行っている。

男女参画推進事業の講話が開催されました



令和5年1月24日、NPO法人 いきいきFネット秋田 理事長 佐藤 加代子 氏を講師に招き、令和4年度男女共同参画推進事業の講話を開催しました。

テーマになぞって、意識を「チェンジ」して「チャレンジ」することで「チャンス」をつかもう！という、前向きで楽しい講話でした。

講話内容を、参加された齊藤幸子さんに下記のとおりまとめていただきました。

みなさんも「自分の事」として、男女共同参画社会について考えてみてください。

《令和4年度男女共同参画推進事業について》

人権擁護委員 齊藤 幸子

大潟村福祉保健課主催の男女共同参画講座に参加しました。

講師はNPO法人いきいきFネット秋田 佐藤加代子理事長です。

「いきいきFネット秋田」は、秋田の男女共同参画を進めることを目的として、一人ひとりを大切にする社会をめざして実現に向けた取り組みとして、講演活動や情報の収集、相談などを行っている団体です。

今回のテーマは「**Change・Challenge・Chance**～意識を変えて挑戦してみませんか～」です。

①Change/チェンジ

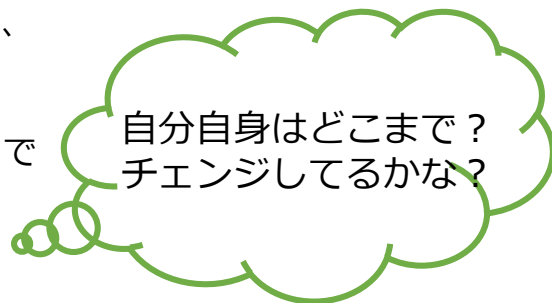
家族の中のジェンダー 家父長制 という考え方を換え、



個人が社会の最小単位として考え方 に変えていくことで



多様性の尊重 につながる。



(課題)

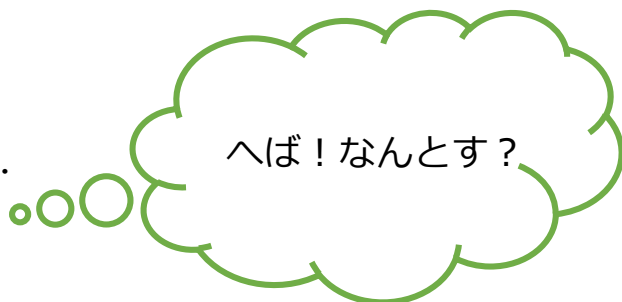
- ・ 男性は有償労働、女性は無償労働
- ・ 賃金格差
- ・ 妻は夫の補充的存在・・・女性は自立できるのか？
- ・ 長男の嫁問題

☆女性の生き方はどこまで変わったか？

女性にも同じように才能があるのに、

女性は仕事も家庭（子育て、介護、家族の世話）も・・・

男性は仕事のみ？



②Challenge/チャレンジ

- ・ 人生は100年時代
- ・ 自分にしたいことを考える(仕事・趣味・起業)
- ・ 楽しみを探す
- ・ 自分らしく生きる
- ・ 人任せでは無い生き方・ ・いづれひとり
- ・ 地域で、仲間で、どんな社会をつくるか？
- ・ 男性も家事、育児に参加しよう

自分に出来る事は！あるかな？
やってみよう！！

③Chance/チャンス

意識のchange(チェンジ)は未来のchance(チャンス)

- ・ どんな自分でありたいのか？
- ・ どんな家庭をつくりたいのか？
- ・ どんな地域をつくりたいのか？
- ・ どんな社会をつくりたいか？

大潟村の未来を！自分で考えよう！

パートナーと、家族と、友達と、仲間と、行政と、語り合ってください。
大潟村の未来の子供たちが生まれてきて良かったと思えるように！！



男女共同参画に関する情報

《秋田県中央男女共同参画センターの事業》

〔問い合わせ先〕 秋田県中央男女共同参画センター TEL：018-836-7853

◇ハーモニー相談室 (TEL：018-836-7846)

生き方、夫婦、親子関係、からだのことなどについて相談を受け付けています。

〔相談時間〕 月曜～土曜日 10：00～17：00 (休業日：日・祝日)

〔相談方法〕 面接 (要予約)、電話、メール

※詳細はHP (<http://akitawmc.com/>) をご確認ください。



日本社会でさらに女性が活躍するには

婦人会・女性部国際交流の会 三村 敏子

令和5年1月16日、JA会館で国際交流員アンドレアスさんとの懇談会を婦人会・女性部の活動グループ「国際交流の会」2名の主催により行いました。テーマは「女性活躍について」。フレッシュミズからも2名参加いただき、計13名の参加がありました。

アンドレアスさんのお話の中で一番印象に残ったのは、「日本女性は、もっと自分の意見や、やりたいことをはっきり言ったほうがいいと思う。」ということでした。また、「男性からリードしてもらいたいと思っているように思う。」ともお話がありました。

デンマークでは女性が仕事をするのは、当たり前なことであり、性別にかかわらず能力主義であるとのこと。なぜ女性議員が多いのか質問しましたが、もはや女性が議員になることは特別なことでもなく普通のことなので、質問の意味が通じないようでした。

デンマークで、1960年代から1990年代に専業主婦の割合が50%から10%に減ったのは、60年代から精神的自由の追求、固定観念の排除をするようになったからということでした。今では、男性が家事育児をするのが、当たり前の社会になっています。男性も女性も育児休業中は給料が100%支給され、育児休業が終わったら普段通りに仕事に戻ります。育休をとっても何の影響もなく、育休を取ったことによりマイナス面があったりすると、国から会社に罰金が科せられます。デンマーク人の今の考え方は、農家の協同組合の運動からだそうで、「同じ船に乗っているから、沈んだらみんな沈む。背中幅広い人は重い負担を背負うべき。」という言葉に表れています。

夫婦別姓に関しては、法律で夫婦が同じ姓にしなければならないのは、195か国中、日本だけ。デンマークでは別姓でもよいが、4分の3の夫婦が夫の姓にしているそうです。その理由は、子供の姓が親と違うと空港などで、本当にあなたの子供か、等トラブルになることがあるためとか。農業に関しては、全体の40%が女性農業者で、仕事としては、経営や経理、人的資源に関する事などの仕事をする女性が多いということでした。

日本では、なかなか固定観念を排除できないのが現状かと思います。デンマークのことがまた少しわかり、早く大潟村がデンマークのような村になればいいなと思いました。



【お問い合わせ先】

大潟村 福祉保健課 福祉班 TEL : 0185-45-2114 FAX : 0185-45-2162